

信賴できる
秘書艦の
補強改修①





infinity line

● ご挨拶

夏と冬で、季節ネタになってしまうのですが、
今回は夏と少し繋がっているような、繋がっていないような。

響ちゃんをぎゅっとして温まりたい季節です。

○提督・司令官

ふとしたことから、響を気にかけて、そのまま秘書艦に。
カッコカリして、寵愛している。
プライベートでは、ヴェールヌイの姿でも響と呼んでいる。

○響・ヴェールヌイ

信頼できる秘書艦。
そばにいてくれる司令官が好き。心も身体も、相性ぴったり。



司令官
なんだい？



ああ
いたいた
響さん



で……
響さん専用のは
机の下に
隠してあるから

明日の夜まで
我慢ね？

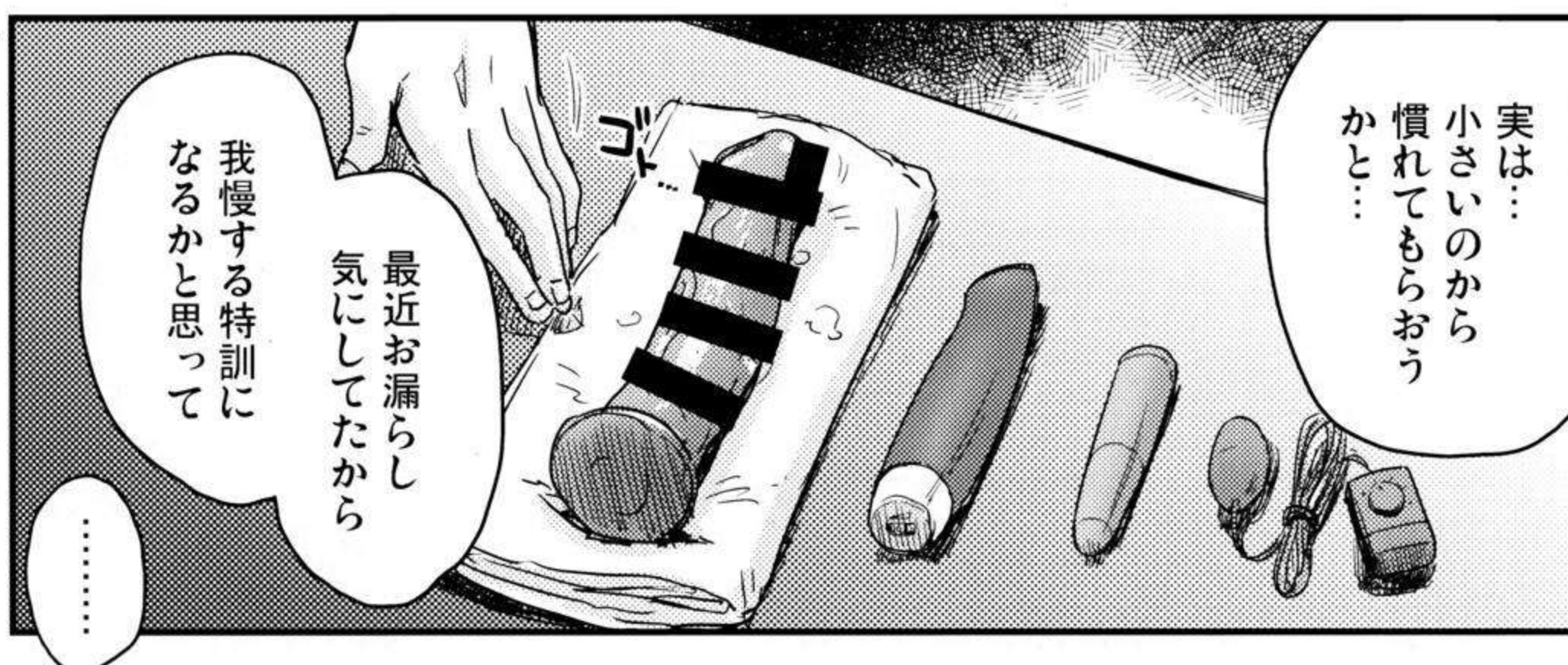


明日の
クリスマス会の
プレゼント
執務室に
集めて
あるから

ツリーの下に
並べて
もらえるかな
了解



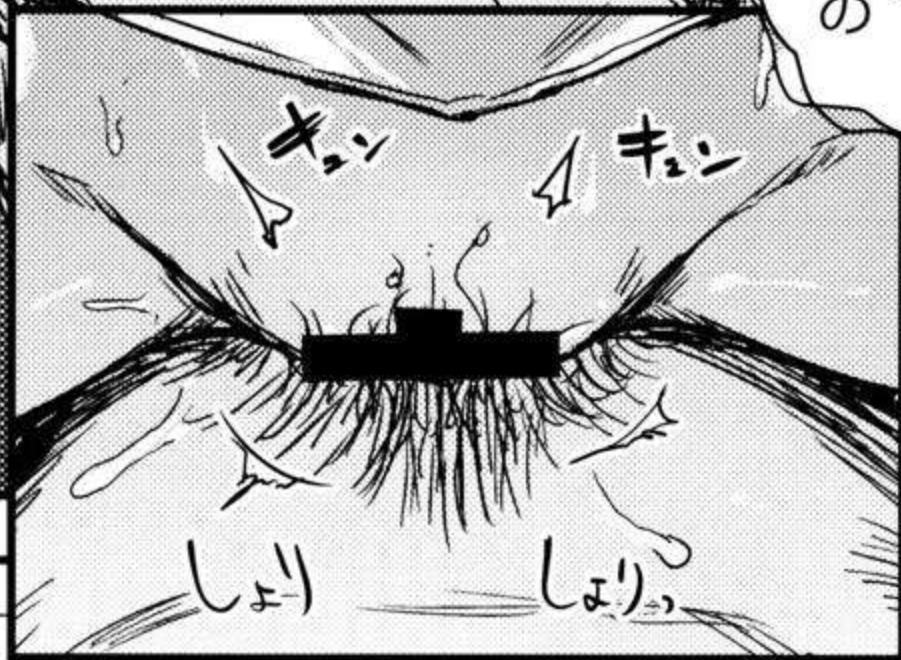




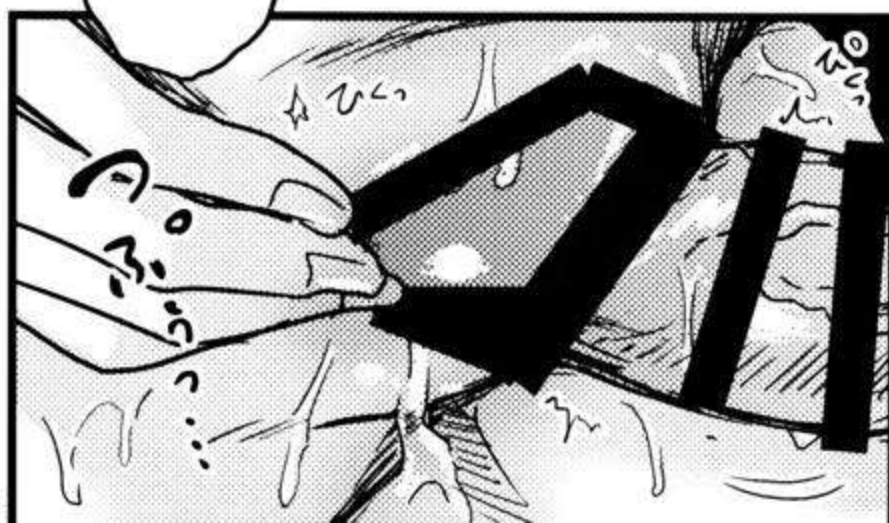




















●奥付

信頼できる秘書艦の補強改修

C107 2025/12/31

infinity line

三郷なな

pixiv: 3105355

mail: misatonana357@gmail.com

印刷:しまや出版

- 無断転載、複写、アップロードの禁止
- 画像生成AI関連への利用の禁止
- 18歳未満の所持閲覧購読の禁止

● あとがき

今回は、前回の夏（C106）の本と少しだけネタのつながりを持たせた内容になりました。

というよりは、一緒に思いついたといえますか。

プレイ内容の違いもそんなにないだろうと思いつつも、毎回お話は考えたいもので、スムーズにえっちな導入にしたいという願望です。

実はいままで、表現できていたかは別として、司令官のモノが入りきってない感じの液体描写（泡）にこだわっていたのですが、今回はそれを逆にネタにしてみようかなという思いつき。

女の子が気持ちよくなってるプレイを描きたいと思っているのですが、ある意味で一つ、納得する内容にできたかなあと思います。

あまり考えすぎると、フィクションとしての快楽表現を制限してしまいそうなので、次はもう少しハメを外してみてもいいかもです。

あいかわらずの本ですが、お付き合いいただきありがとうございます。印刷所さまにも、毎回お世話になっております。ご迷惑をおかけしたくないと思いつつ、毎回これでいいのかと悩んでしまっ、手の遅さに恥ずかしいところです。

いずれにせよ、また機会がありましたら、お手にとっていただければ…

三郷なな

